

直床遮音マット

OY430 施工要領

※ 施工の際には下記の施工要領に従って、正しい製品のお取扱いをお願いします。

※ 製品の遮音性能等級は、公的試験機関における一定条件下の試験を元に導出された値であり、実際の現場の遮音性能を保証するものではありません。

実際の現場における遮音性能はスラブ厚、面積、端部の納まり方等の諸条件により異なります。

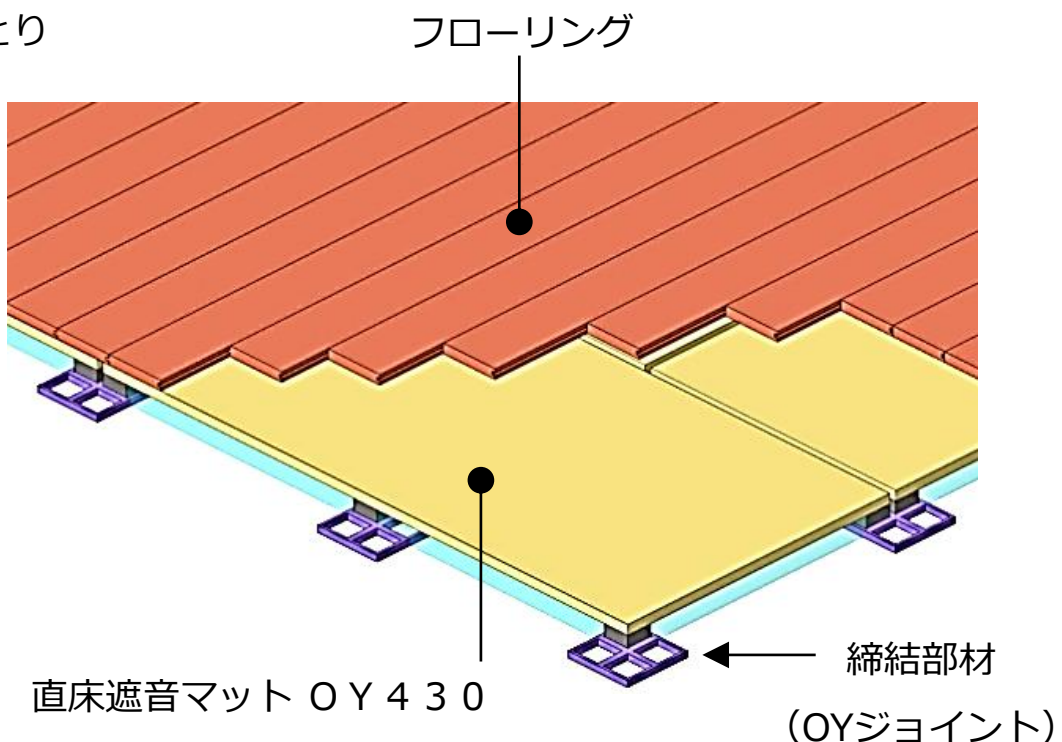
○ 製品概要

直床遮音マット OY430 は捨張一体型の床下地材です。

マットを締結部材で連結して敷き並べる製品です。

○ 必要な道具

- ・ 電動ノコギリ（丸鋸）
- ・ スケール
- ・ カッター
- ・ ほうき
- ・ ちりとり



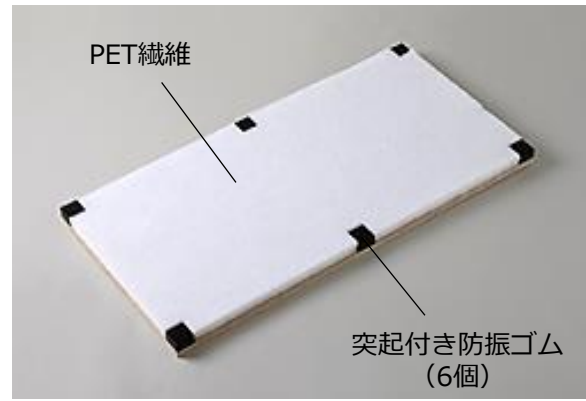
○ 製品仕様

・ マット (OY430)

(厚さ) 43mm x (幅) 455mm x (長さ) 910mm



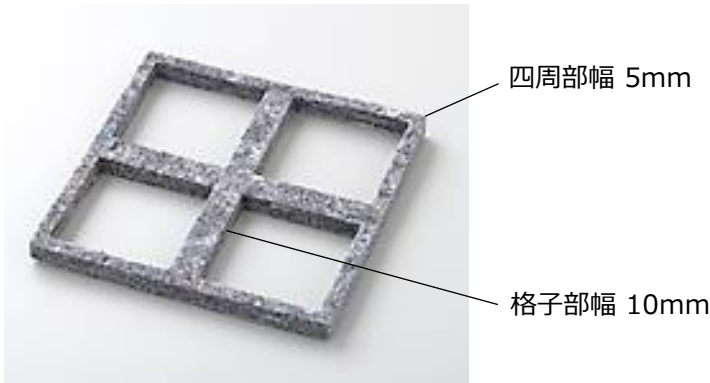
マット表面



マット裏面

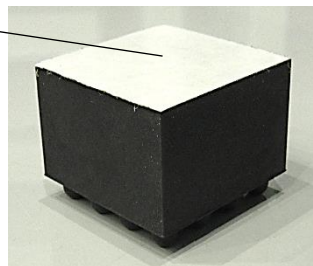
・ 締結部材 (OYジョイント)

(厚さ) 7mm x (幅) 104mm x (長さ) 104mm



・ 補充脚 (突起付き防振ゴム) ※ 別売

(厚さ) 28mm x (幅) 40mm x (長さ) 40mm

両面テープ
(表面離型紙)

補充脚表面



補充脚裏面

・ 捨張合板 (※ 必要な場合)

(厚さ) 12mm 以上を推奨

○ 施工手順

1. 施工を始める前に

- ・ 本製品は高さの調整ができません。
スラブの不陸が1000mmにつき3mm以上（±1.5mm以上）ある場合は調整をお願いします。
- ・ スラブの上にゴミがないように清掃してください。
- ・ マットの枚数 / 締結部材の個数 / 補充脚の個数を確認してください。
- ・ 部材に過度の変形や損傷がないことを確認してください。
- ・ フローリングの方向を確認してください。
マットの長手方向をフローリングに対して直交方向に敷いてください。

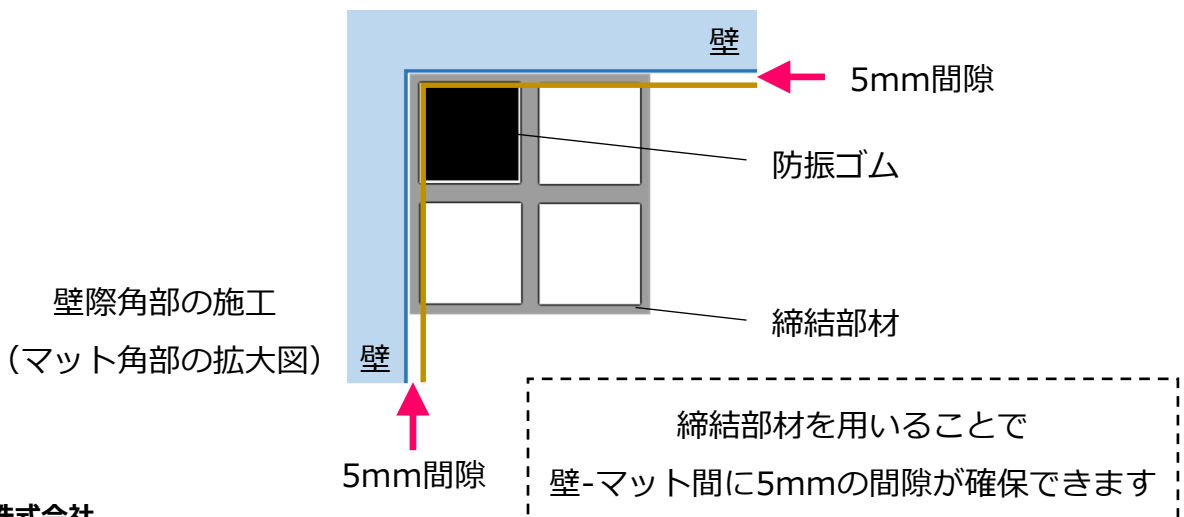
2. 直床遮音マットOY430の敷き並べ

1列目の施工

- ① 壁際角部に締結部材を用いてマットを敷いてください。



※下地への防振ゴム, 締結部材の接着は不要です。

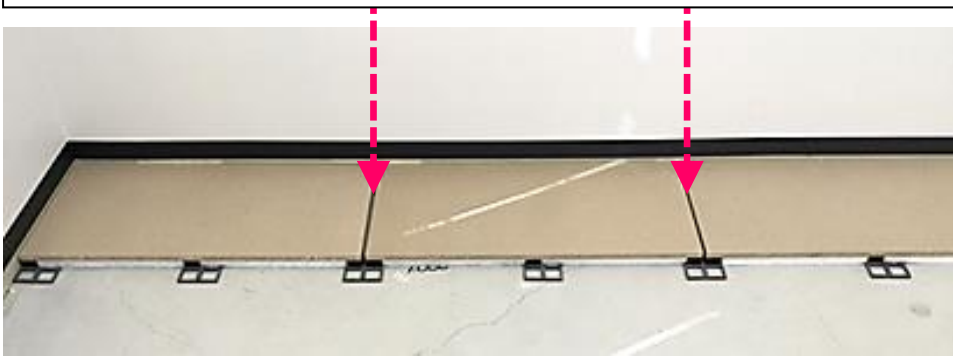


② マットの脚に締結部材をはめ込んでください。



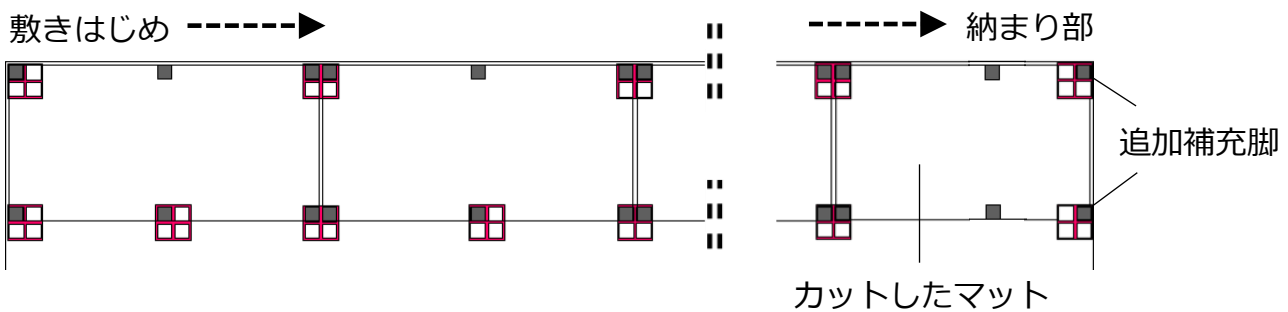
③ 締結部材でマットを連結し、敷き並べてください。

締結部材によってマット同士に10mmの隙間が確保できます

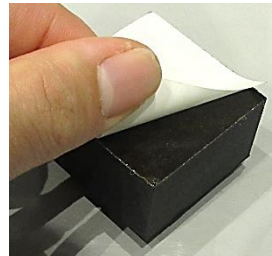


④ 納まり部に合わせてマットをカットし、脚材を追加する部位のPET繊維を40mm角程切り取って下さい。

別売の補充脚の離型紙をはがし、追加する部位に貼り付けてください。



カッターでPET繊維をカット



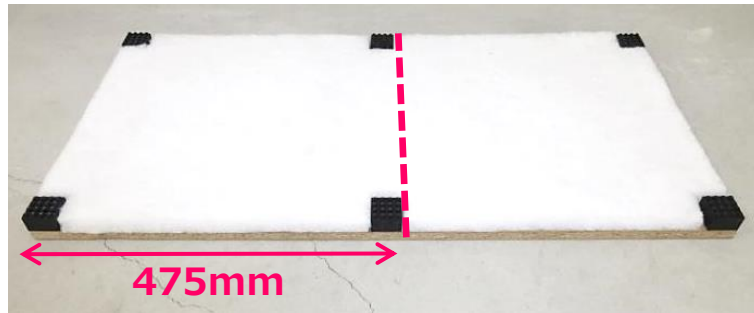
追加補充脚の貼り付け

2列目以降

⑤ マットをレンガ張りで敷きます。

偶数列の初めのマットは端部から475mmの位置（マット中央部の防振ゴムの際）でカットしてください。

点線の位置でカットします

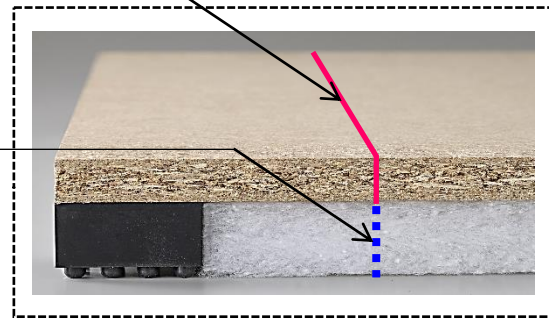


カットしたマット



丸鋸でカット

カッターでカット



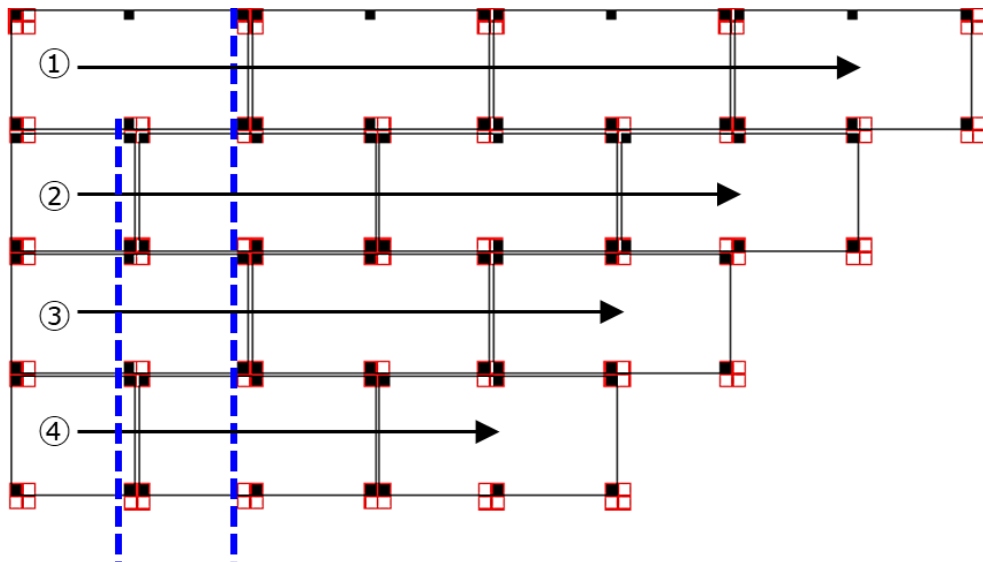
※ マットのカット

パーティクルボード部分のみ丸鋸でカットした後、
吸音材をカッターでカットしていただくと加工が簡単です。

※ 納まり部（張り終わり）のマットの最小寸法は短手・長手方向ともに
200mm 以上になるようにしてください。

200mm 以下になる場合は前の行・列のマットをカットするなどして
調整してください。

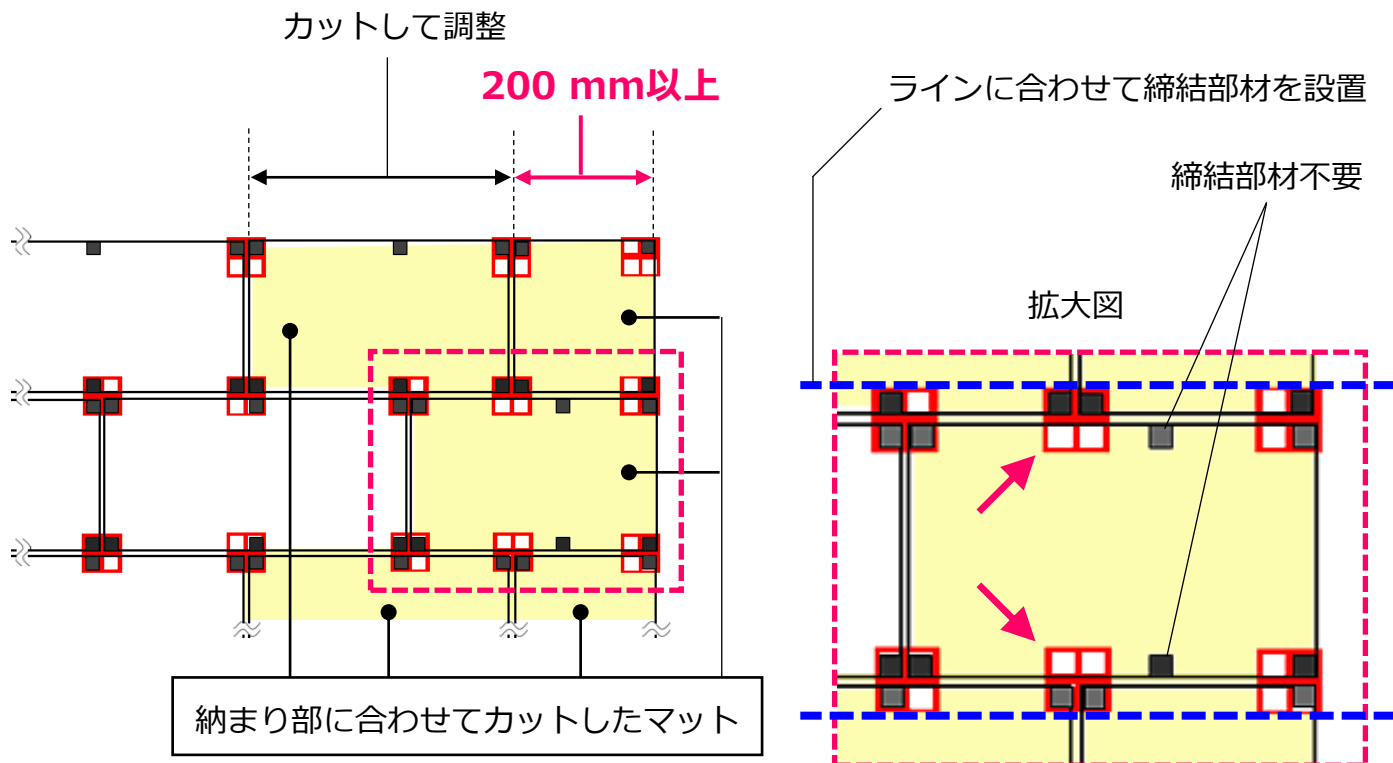
○ 敷き並べ図



※ マットを敷き並べる順番は矢印の通りです。

※ 締結部材はライン（上図破線）に合わせて設置してください

※ 納まり部における締結部材の設置方法



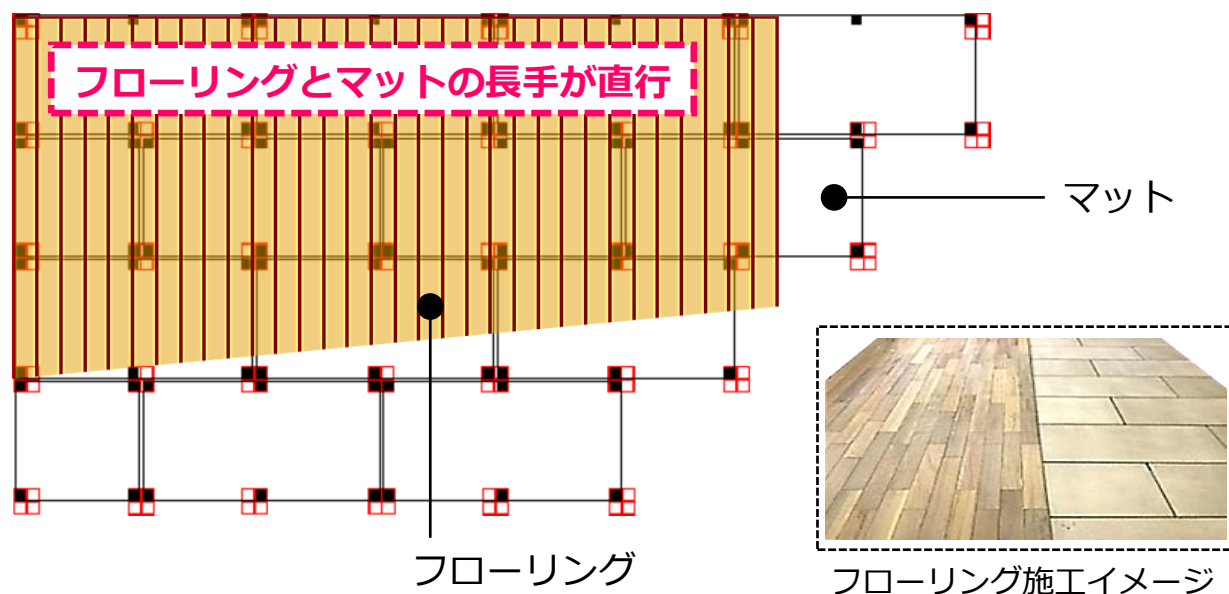
縦方向に脚が存在しない場合、
横方向に隣り合う脚のみを締結部材で連結します

3. フローリングの施工

フローリングはフローリングメーカー様の施工要領に従い施工してください。

※ フローリングはマットの長手方向に対して直交方向に敷いてください。

※ フローリングはフローリングメーカー指定の接着剤とフロア用スクリュウ釘またはフロア用ステープル釘を併用して固定してください。

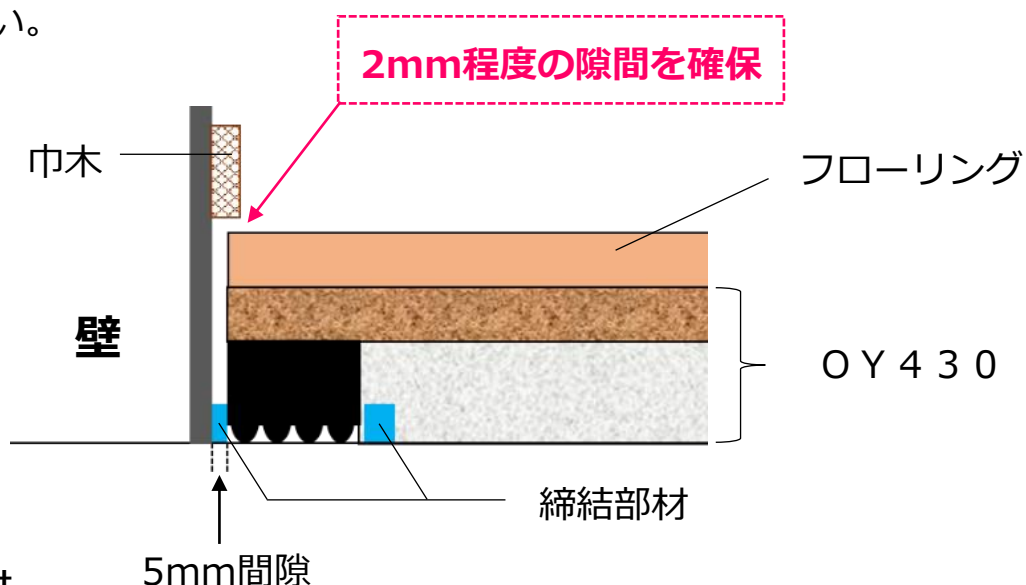


※ 捨張合板を施工しない場合

フローリングとマットの固定には長さ38mmのフロア用スクリュウ釘またはフロア用ステープル釘（接着剤付き）を使用してください。

※ 壁際の施工

巾木はフローリングと垂直方向に2mm程度の間隙を確保して取り付けてください。



○ 捨張合板の施工

捨張合板が必要な場合は施工してください。

※ 捨張合板を設定する場合

基本的にマットの長手方向に対して直行方向に施工してください。

また、捨張合板の目地とマットの目地が合わないよう施工してください。

捨張合板の継ぎ目は突き付けずに3～5mm程度の間隙を取ってください。

※ 捨張合板とマットは長さ25mm以上のスクリュー釘またはビスを使用し300mmピッチ以下で固定してください。

<捨張合板の施工を必要（推奨）とする場合>

- ・ 歩行感、沈み込量を気にされる場合（推奨）
- ・ 仕上げ材のフローリング幅が150mmに満たない場合（推奨）
- ・ 直貼フローリング（クッションフロア）仕上げ
- ・ カーペット, 絨毯仕上げ
- ・ 長尺塩ビシート仕上げ
- ・ タイル仕上げ（2重張り）
- ・ 床暖房仕様

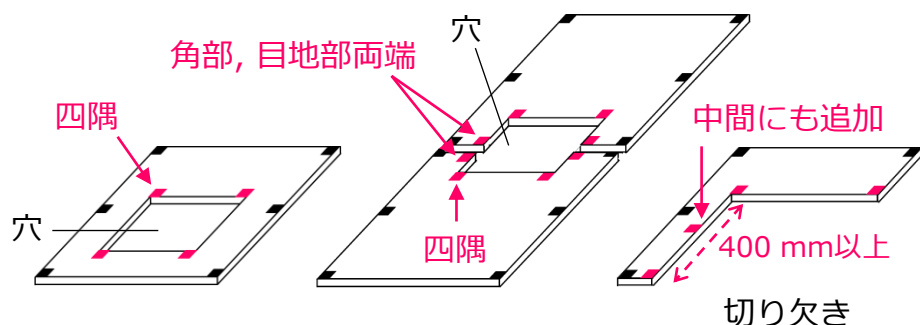
※ 各種仕上げ材, 床暖房の施工方法はそれぞれのメーカー様にお問い合わせください。

○ マット（床下）に穴や切り欠きを設ける場合の処置

マット（床下）に穴や切り欠きを設けるとその部位の強度が低下するため、補充脚を追加する必要があります。

追加する補充脚の数は穴や切り欠きの大きさにより異なりますが、基本的に

- ・ 四隅
- ・ 角部
- ・ 目地部の両端



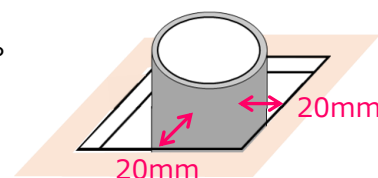
に追加してください。

また、脚材の間隔が400mm以上になる場合は中間に補充脚を追加してください。

○ 床下配管の立上がり部の処置

配管周りは配管とマットが触れないよう20mm程度の間隙を設けてください。

※ マットと配管が触れると床鳴りの原因になります。



○ 大型の棚や収納および冷蔵庫等の重量物の下には補充脚を200mmピッチで追加し補強してください。

また、予めピアノ等の特別な荷重（目安300Kg/m²以上）が予想出来る場合には、全壁際面に厚さ27～28mmの隠根太を施工してください。

○ 取り合い部（納まり部）の処置

以下の取り合い部, 突き付け部には沈み込み対策として補充脚を200mmピッチで追加する、もしくは厚さ27～28mm隠根太を施工してください。

水周り / サッシ部 / 敷居部 / 框部

※ 隠根太を施工する場合、隠根太材は現場で調達してください。

※ 隠根太施工時のレベル調整は現場で薄板材の積層等で実施してください。

○ 床下に配線/配管を通す場合の処置

床下に配線/配管を通す場合、通す配線/配管の経の大きさに注意してください。
配線/配管の経が床下空間（28mm）に対して十分に小さく、設置後にマットと接触しないか事前に確認してください。

※ マットと配線/配管が触れると床鳴りの原因になります。

通す箇所のPET繊維をカッターでカットし、取り除いてから設置してください。

○ その他の注意事項

※ マットは水に濡らさないようにしてください。

また、長時間湿気の多い場所、もしくは直射日光の当たる場所に放置しないでください。

破損・たわみ・突き上げ・床鳴り等の原因となります。

※ マットの上に資材を仮置をする場合は静かに置いてください。

また、1ヶ所にまとめず、分散させて置いてください。

最終的にフローリングを施工することで強度が発揮されるので、
施工途中の段階で強い衝撃を与えたり、過度の重量物（200Kg/m²以上）
を置かないでください。

まとめて仮置きをした場合、床のたわみが戻るまで時間がかかり、
仕上げ材の施工に支障が出る可能性があります。

※ マットを敷いた後にマット同士の隙間を確認してください。

隙間がない場合、正確にマットの脚が締結部材にはまっていない可能性がある
ので確認し調整してください。

※ マットの施工後、及び捨張合板の施工後は、必ず床鳴りが発生していないか
確認してください。

床鳴りが発生している場合は、原因を調べ修繕してから次の工程へ進んで
ください。

※ 特殊な環境で使用する場合は事前にご相談ください。